

トピックス



大阪市北区天満橋1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

子供たちの子どもたちによる「森林教室」

第三回目！ ^{しょうらん}翔鸞小学校 ～衣笠山国有林～



手作り資料で説明する6年生

【京都大阪森林管理事務所】 6月17日（月）、衣笠山国有林において、京都市立翔鸞小学校5年生（1クラス26名）、6年生（2クラス44名）の児童を対象とした「森林教室」を開催しました。今回は、前2回（第1回：2月号、第2回：6月号で掲載）で冬と春の衣笠山を体験した6年生が、初めて衣笠山を訪れる5年生を案内するという企画です。冬と春を体験した6年生は、「冬に青空が見えていた落葉樹林が春には若葉が茂っていた、その木のおかげで夏は日差しがさえぎられて涼しいんだ、木に感謝！」、「当たり前のことだけれど、冬と春では咲く花も生える芽も存在を感じる虫や動物も地面の上のものも違うことがわかった。」などの感想が聞かれ、「冬と春の体験で芽生えた自然へのワクワク感を、5年生の人たちにも知ってもらいたい！」という決意のもと、資料作成、発表練習など、今回の森林教室に備えました。

当日は、協力ボランティアとして京都森林インストラクター会から6名、翔鸞小学校から引率の先生5名、箕面森林ふれあい推進センターから1名、当所から2名がスタッフとして参加しました。

開会にあたり、京都森林インストラクター会の篠部会

長より、本日の目的と注意事項の説明を受け、5年生2名と6年生2名の4名を1グループとして、順次衣笠山一周コースに出発しました。3グループ毎に森林インストラクターが補助につき、途中6箇所に詳細説明クイズポイント（ナラ枯れ、分解者としてのキノコ、松枯れ、国有林境界標、食物連鎖、人工林）を設けて、6年生3名ずつが待機しました。

案内役の子供たちは、モチツツジ、ミツバツツジ、ネズミサシ、ナツハゼ等、出会う対象物について、自分の言葉で説明し、学んだ成果を発揮していました。また、ポイントの子供たちは、絵と文字でわかりやすく説明を書いた大きな紙を持参し、クイズも交えて、5年生の興味を引いていました。

山頂では、当所職員から「国有林境界標識を学んで下さった皆さん、これから国内旅行をされた時に「山」の文字の標識を見つけたら、「国有林」を思い出して下さい。」と国有林の楽しみ方を紹介しました。

下山後の振り返りでは、6年生からは、「うまく発表することが出来て良かった。」「緊張したけど、やって良かった。」「静かに聴いてくれない時は、残念だった。」5年生



熱心に観察をする子どもたち

からは、「6年生の説明がわかりやすくて良かった。」などの感想がありました。振り返りの最後に、5年生が6年生へお礼の拍手をした時の6年生の嬉しそうな恥ずかしそうな顔が印象的でした。

全3回を通じての評価は、1. 季節の違いを体感することができ、自然に対する興味が広がった。2. 発表に向けて詳しく学ぶことによって、対象物に親しみを持った。3. 発表の達成感とともに、聴く側の態度の大切さを身を持って感じた。4. 他の人の発表について疑問点を見つける子供もいて、これは探究心の芽生えにつながるかもしれない。などがあげられます。

最後に箕面森林ふれあい推進センターの職員から「6年生がしっかり5年生を案内してくれました。」と6年生へのねぎらいの言葉がかけられ、小学校の先生からは「今回の森林教室のためにスタッフの方は何回も下見や打ち合わせをしておられます。感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。」とスタッフへのお礼を述べられ、閉会しました。

インストラクター 森林管理局のみな様へ
 前に行った時は山に登ることだけで大変すぎて
 あまり自然を感じられませんでした。
 しかし今回は山登りにもなれすぎてたくさん自然
 を感じる事ができました。
 そしてたくさんの自然を感じてわたくしは、世界
 でした。
 たとえば、モチツツジならゴキブリなどの虫がごな
 いように花の下にネバネバした物をつける。そして
 人間の世界でいう防犯であったりねのではないかと
 思います。
 衣笠山の植物や動物も人間と同じように規
 則などを作って、平和な世界を創るためにみんな
 協力しているのかなとわたしは
 思いました。



感想文も沢山頂きました

地域ニュース

「第5回 森と水の学習会」開催
 アサヒビールとの民国連携事業

【広島北部森林管理署】 6月4日(火)、広島北部森林管理署とアサヒビール「アサヒの森環境保全事務所」(松岡洋一郎所長)は、アサヒの森及び^{たわらばら}俵原山国有林で「第5回森と水の学習会」を、庄原市高野小学校5・6年生児童32人を対象に開催しました。

当日は、「森の子体操」で全員が体をほぐした後、森林ボランティア団体「びほく森のサポーターズ」による紙芝居「森林からのおくりもの」や森林クイズ「びほく森のサポーターズによる紙芝居」で、森林の働きや大切さについて学びました。



その後アサヒの森では、文化財の森の話や、列状間伐を行った施業地を見学しながら、児童がぎゅうぎゅうで『狭く苦しい』状態で何人かが抜け出て楽になった状態を体験するなどの間伐ゲームを行い、間伐の意味や大切さなどについて学びました。

また丸太切り体験では、スギやヒノキの大きな間伐木を、普段あまり使うことのない「のこぎり」で、息をきらし悪戦苦闘しながらも楽しんでいました。また2回、3回と挑戦し、丸太の輪切りを切り落としていました。



丸太切り体験

午後からは俵原山国有林に移動し、職員による説明で、森の中の「すがすがしい香り、ひんやり感」を実感したり、「ふわふわの森の土」を踏みしめ、湧き出る冷たい水に手でふれたりしながら、「森林のはたらき」を直接自分たちの肌で感じとっていただきました。児童の中には溪流の水に手をつけ「我慢比べ」をしている姿など、森の水の冷たさにあらためて驚いていました。

最後に児童代表から「山奥に行くほど水がきれいなのでびっくりした。学校で習っていることがより実感できた。」などの感想がよせられ、梅雨の晴れ間の初夏を思わせる森林で、充実した一日を過ごしました。

トライやる・ウィーク

～山崎西中学校2年生が職場体験～

【兵庫森林管理署】 6月3日（月）～7日（金）までの5日間、宍粟市立山崎西中学校の2年生7名が「トライやる・ウィーク」活動として職場体験を行いました。

ふだん学校ではできないことや、生徒がやってみたいと思うことを、一週間学校を離れて存分に挑戦することから「トライやる・ウィーク」と名付けられました。

この活動は、学習の場を地域に移し地域の人々と共に一週間を過ごし、様々な体験活動や地域の人々とのふれあいを通じて、生徒の心を育てたいという思いから行われています。

当署は毎年生徒を受け入れており、立木調査や測量、広葉樹の植栽、枝打・間伐作業を体験、木材生産の実施箇所の見学、入り込み者の多い林道沿いのクリーン活動などを行いました。

また、「大木の森を歩く」として、赤西国有林の天然スギ大径木（幹周り660cm）の巡視活動を行いました。

予定した5日間天候にも恵まれ、職員の指導のもと真剣に取り組み、有意義な職場体験となりました。



天然スギ大木と一緒にパシャリ！



生徒からは、「チェーンソーを初めて持たせてもらって、思った以上に重かった。山の人はこんなものを持って作業するので、凄いと思った。」「林業機械に乗せてもらったのが楽しかった。」「間伐や枝打ちで、森がすっきりしたような気がした。」「ゴミが無くなるのは気持ちが良かった。山はきれいな方がいいと思った。」などの感想が聞かれました。

最後に次長から生徒に向けて、「仕事でも普段の生活の中でも、人と人とのつながりが大事。仲間を大事に、自然を大事にして学校生活を送って下さい。また、今回の

トライやるに参加した生徒の中から、森林・林業関係の仕事に就いてくれることを期待しています。」と締めくく



どうやって木が切れるのか？

り5日間の『トライやる』を終えました。

「トライやる・ウィーク」とは
 ・トライする（やってみる。新たなことに挑戦する。）
 ・トライアングル（学校、家庭、地域が連携して生徒を育てる。）
 生徒たちに時間的、空間的なゆとりを確保し、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な活動や体験を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援するなど、「教」より「育」を中心にすえた「心の教育」を推進することを目的に兵庫県が平成10年から実施しています。

森の幼稚園ひかり 遊々の森～大亀谷国有林～

【奈良森林管理事務所】 6月29日（土）に、奈良森林管理事務所と遊々の森協定を締結しているひかり幼稚園が、大亀谷国有林内に設定している遊々の森「森の幼稚園ひかり」において、年長園児を対象に森林教室を開催しました。園児60名、保護者80名、先生3名、赤膚ネイチャークラブ5名、当所3名が参加しました。

ひかり幼稚園では、園児達に森林の中で自然とふれあう体験を通して、自然を大切にすることを目的に、保護者と一緒に幼稚園から近く入林しやすい大亀谷国有林をフィールドとして活用しています。

また、遊々の森協定については、これまでのひかり幼稚園との2者協定から、より効果的な活動ができるよう、赤膚ネイチャークラブを加えた3者協定としたところからです。

当日は、年長園児と保護者が、赤膚ネイチャークラブ代表のリングホーファー・マンフレッド氏の指導のもと「サウンドマップ」や「フィールドビンゴ」などのネイチャーゲームが行われ、森林の中にある様々



なものを探したり、聞こえてくる鳥や自然の音に耳を傾けることにより、園児達は自然を肌で感じることができました。

フィールドビンゴでは、森林内にある形や物を探すため、お父さんやお母さんと一緒になって色々な角度から観察し、大人では気づかないところにある物を見つけるなど子供の観察力のすごさに驚かされる場面もありました。また、サウンドマップでは、聞こえてくる音に耳を傾け、どのように聞こえるか絵に描いて表現させましたが、子供ならではの素直な表現力や感受性を見ることができました。

子供たちは、自然の中でお父さんお母さんと楽しい一時を過ごすことができました。



今日は楽しかったです！

琵琶湖の源流の森林「山門水源の森」 で現地交流会を開催

【滋賀森林管理署】 6月9日（日）、滋賀県長浜市西浅井町で、滋賀県主催、長浜市、山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会（以下、引き継ぐ会）、森林環境の保全・整備連絡調整会議（林野庁近畿中国森林管理局、滋賀県、京都府、大阪府）の協力により「ササユリを育むびわ湖水源の森」と題して、山門水源の森現地交流会が開催されました。

この現地交流会は、森林と琵琶湖がもたらす恵みに感謝しながら、理解を深め、琵琶湖・淀川流域における上下流連携など多様な取り組みによる森づくりをサポートし、森づくり活動団体の活動促進や新たな参画の機会を創出することを目的としています。

当署からは、森林技術指導官、地域林政技術官の2名が参加しました。

午前の参加者は約150名で、西浅井公民館多目的ホールにおいて、滋賀県森林政策課杉本参事の挨拶から始まり、和歌山県農業大学校宮本教授から「蘇れ！ササユリ

の里—ササユリの再生に向けて—」の講演、引き継ぐ会の藤原氏から「山門水源の森のササユリの現況と保全活動」の講演がありました。



沢山の方が参加しました

午後の参加者は約80名で、山門水源の森（県有林63.5ha）の現地に移動し、湿原コース、四季の森コース、保全活動視察コースに分かれて、引き継ぐ会のガイドによるササユリ観察ツアーが実施されました。

現地はササユリが数多く咲いていて、引き継ぐ会の、シカ・イノシシ・昆虫による食害等に対する日頃の地道な保全活動の労を考えると、咲いているササユリは一層美しく輝いて見えました。



地域の幼稚園にて森林教室を開催

【森林技術・支援センター】 6月15日（土）、新見市高西幼稚園において森林技術・支援センターによる森林教室を開催しました。

この取組は、幼稚園から、「森林の大切さなどについて親子で学べる教室を開いてほしい」との要請に応えたもので、今回、職員による紙芝居「ぼくたちのやくそく」の上演と森の恵み（木の枝や実）を使用した名札づくり体験を実施しました。

当日は土曜日ということもあり、園児のきょうだいも参加しての森林教室となりました。

「気比の松原100年構想」～松葉かき～

【福井森林管理署】 6月2日（日）、日本三大松原の一つに数えられる敦賀市の「気比の松原」を守ろうと、市民ら150人が参加し松葉かきを行いました。



気比の松原は面積が約32haあり、海岸林にはめずらしいアカマツを主体とした国有林で市



民の憩いの場や観光地として親しまれています。しかし、近年は広葉樹の侵入や、樹木が混み合ってきたことなどにより、マツが弱っているほか、松くい虫による枯死が増えています。このため有識者や市民団体と共に保全対策をまとめ「気比の松原100年構想」を基本方針として掲げました。これにより松葉かきや、広葉樹の芽かきなどの活動を計画・運営する「気比の松原100年構想連絡協議会」が7月9日に発足します。今後は市民サポーターを募り「白砂青松」の再生をめざします。

松葉かきの参加者は熊手で松葉をかき集め、ゴミ袋に詰め約1時間で100袋以上になりました。参加者からは「活動に参加でき楽しかった。今後も協力したい。」という声も聞きました。今後は協議会と連携して松葉かきを実施するなど、将来にわたって松原の保全に取り組んでまいります。



紙芝居、楽しく上演中

所長による森林技術・支援センターの取組内容を説明の後、センターの専門官及び係長による紙芝居を上演。森林の大切さを学びました。引き続き、親子が協力して名札や木製キャラクター「モックン」づくりに取り組みました。



夢中で作製中♪

どちらかと言えば子どもより親の方が一生懸命なのは？っと思えるほど没頭して作製した幾つもの作品を手に満足した様子でした。

今後も森林技術・支援センターは、このような森林教室などの取組を通じ、地域の方々に国有林野事業やセンターの業務を活発にPRしていきたいと考えています。



「モックン」たくさん出来ました！

准フォレスター補助者育成 (事業系) 研修Ⅰを実施

【森林整備部 資源活用課】 6月4日(火)～6日(水)に、森林技術・支援センター等において、准フォレスター補助者育成(事業系)Ⅰ研修に各森林管理署等の森林官13名が参加したほか、森林技術・支援センターの職員が聴講しました。

この研修は、平成23年度から県職員等を対象として実施している准フォレスター研修Ⅰの事業系で使用している研修教材を活用し、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで高効率な木材生産を行っていくため、森林作業道の路線選定等に関する技術を習得することを目指すものです。

1日目は、森林技術・支援センターについて所長からの概要説明に始まり、局資源活用課長から、日本の森林・林業の



1日目：机上検討

現状、木材の価格・流通、局企画官から路網と作業システム、安全対策等の講義の後、准フォレスター研修同様、古谷国有林約100haの間伐事業地における森林施業プランナーが作成した事業計画及び路線計画案を基に、3班に分かれ、気象条件や地形・地質など書面の情報を加味しながら、より効率的に間伐を実施するための路線選定を机上で検討しました。

2日目は、古谷国有林に移動し各班ごとに岡山森林管理署の地域技術官の助言を受けながら



2日目：現地で土壌の特徴を学ぶ
現地踏査を行い、より適切な路線選定となるよう熱心に議論し検討を行いました。

そして、最終日には、前日に踏査した結果をもとに、班ごとに効率的な間伐を行うための路線選定をとりまとめて発表しました。

発表では、図面(地図)だけではわからなかった現地

の地形等の状況を踏まえて路線を修正したり、林地保全を考慮して作業システムを検討したり、現地で採用する作業システムに
 応じて路網密度を変化させたりと様々な工夫が見られ、森林作業道の路線選定には、幅広い条件を総合的に考える必要がある



最終日：取りまとめ発表

という問題意識を共有した有意義な研修となりました。

今後、各受講生がこの経験を活かし業務を遂行する中で、さらに技術力を磨いていくことが期待されます。

※ 高性能林業機械とは従来の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械です。(プロセッサ・フォワード等)

平成25年度 交通安全講習会

【総務企画部 総務課】

6月27日(木)、平成25年度交通安全講習会が局大会議室にて行われました。

毎年お願いしている天満警察署から交通課交通総務係長を



お招きし、講義並びに交通安全に関するDVD(「奪われた命」)の視聴を行いました。

～講習会内容抜粋～

今年の交通事故による死亡者数は大阪市で72人。昨年1年間で182人亡くなっている。新聞等で報道されることは少ないが、身近なところで事故はたくさん起きている。

特に交通事故で多いのが、

- 駐車場を出るとき
歩行者や自転車 coming しているかの確認がおろそかになりやすい。
ゆとりを持って、左右をよく確認すること。
- 駐車場の中で
いつも止めている場所でも周囲や車の下など変化がないか。

<もしも、交通事故を起こしたら>

- ①負傷者の救護 (119番通報等)
 - ②安全な場所へ移動・・・二次被害を防ぐ
 - ③警察へ届出
- 誘因事故(驚いて転倒したことによる事故など)も相

手がその場から立ち去ってしまっても、警察へ届出は必要→届出がないと『ひき逃げ事故』として捜査される
 <飲酒運転について>

アルコールがすべて分解→飲酒後8時間程度かかる
 例) 6時間前に500mlのビールを3本飲んで運転…
 呼気1リットル中のアルコール濃度が0.25mgを超えていた。(0.15mg以上で酒気帯び運転)

*朝早く車の運転をする時は、前の日は早めに飲酒をやめ、量も控えめにした方が良い。

<自転車による事故について>

自転車からみの事故が非常に多い。

例) 自転車に乗った高校生が歩行者と正面衝突し、歩行者が転倒して死亡…賠償金3千万円・示談金計750万円
 *子供にも自転車の運転に注意するよう言うておく。

スマートフォンや携帯電話を使用しながら自転車を運転する人が多いので、車を運転する際は防衛運転を心がける。～以上～

局職員約60名が参加し、熱心に聴講していました。

DVDはフィクションドラマでしたが、被害者の家庭が交通事故が引き金となって崩壊し、子供がやむなく児童養護施設に引き取られるシーンには何とも切ない気分になりました。

今回の講習を受けて、家族とも注意し合いながら公私ともに安全運転を心がけようと思いました。

お知らせ

花草木

『レモン哀歌』 高村光太郎

そんなにもあなたはレモンを待つてゐた
 かなしく自くあかろい死の床で
 私の手からとつた一つのレモンを
 あなたのきれいな歯がかりりと噛んだ
 トバアズいるの香気が立つ
 その数滴の天のものなるレモンの汁は
 ぱつとあなたの意識を正常にした
 あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑ふ
 わたしの手を握るあなたの力の健康さよ
 あなたの咽喉に嵐はあるが
 かういふ命の瀬戸ぎはに
 智恵子もとの智恵子となり
 生涯の愛を一瞬にかたむけた
 それからひと時
 昔山巔でしたやうな深呼吸を一つして
 あなたの機関はそれなり止まった
 写真の前に挿した桜の花かげに
 すずしく光るレモンを今日も置かう

これは、妻智恵子の死の瞬間をかけた作品です。

差し入れのレモンで意識も洗われたのでしょうか？

その、数時間のちに彼女は静かに息を引取ったそうです。

愛に忠実、心からの思慕。

その柑橘系の味とは違った甘い花言葉をもつ甘いレモンのお話です。

「森林の調査隊!! フォトコンテスト」作品募集!!

募集ジャンル

1. 「森林の動植物(植物・昆虫・動物)」部門(小学生・中学生)
2. 「森林と人との関わり」部門(中学生・高校生・一般)

募集締切

平成25年10月31日(木曜日)必着

応募作品

A4版カラー印刷写真(デジカメ・携帯電話端末などのデジタル写真)3枚1組を1作品とします。

(※未発表作品に限ります)

詳しい応募方法、用紙、お問い合わせなどは、

箕面森林ふれあい推進センター ホームページ

http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/information/morinochousatai.html をご覧ください。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8番75号

近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

「森林の調査隊!! フォトコンテスト」係

「見て・さわって・樹木と友だちになるう!」

森林インストラクターといっしょに、木と緑の相談室イベントを開催します。内容は、自然材料をつかったクラフト、ミニ自然観察会、丸太切り体験とパズル作りです。

開催日: 平成25年8月17日 土曜日

開催時間: 午前の部 10:00～12:00 午後の部 13:30～15:30

近畿中国森林管理局1階ギャラリーにて開催します。

どなたでも参加できます。(小学生低学年以下のお子様は保護者同伴をお願いします。)

申込先着順で定員(30名)になり次第締め切らせていただきます。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/sodansitu/index.html>

お問い合わせ、参加のお申込先

近畿中国森林管理局技術普及課(担当: 今井、宮下)

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8番75号

電話番号 050-3160-6753 ファックス 06-6881-2055

E-mail kc_shidou@rinya.maff.go.jp

森林のギャラリー(局庁舎1階)

【7月の展示スケジュール】テーマ: 府県・近畿中国森林管理局の取組

7/8～7/19 「富士山・世界文化遺産展」

【山梨県大阪事務所・静岡県大阪事務所】

7/8～7/21 「木エクラフト作品展」《展示BOXのみ》【局技術普及課】

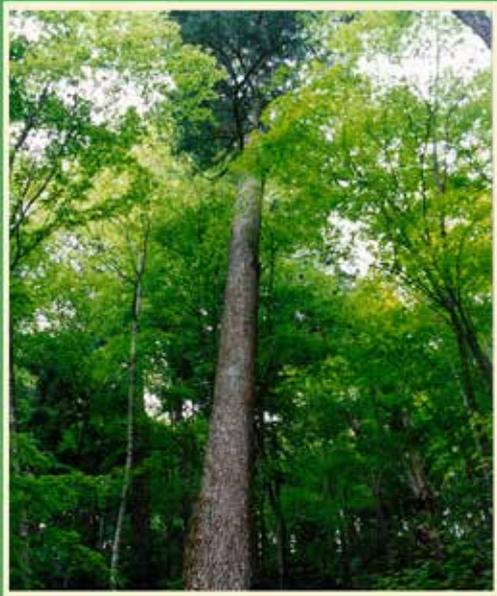
7/8～8/10 「五番街作品展 in 大阪」【ドールハウス五番街】《展示BOX》

7/22～8/2 「近畿中国森林管理局各署の取組紹介」【局技術普及課】

シリーズ 保護林 第2回

近畿中国森林管理局の保護林
たいひさん

大悲山モミ植物群落保護林 [淀川上流森林計画区]



大悲山モミ植物群落保護林は、京都市左京区花背に位置する大悲山国有林内にあります。天然のモミ、スギ、ヒノキなどで構成され、主にモミのモミ植物群落を保護しています。

保護林内には天然のモミ、スギ、ヒノキの大木がみられ、春にはイワウチワの美しい花が林床を彩ります。

この保護林の面積は10.24haで、水源かん養保安林にも指定されています。

周辺には大悲山(741m)、峰床山(970m)、八丁平湿原などがあり、峰床山と八丁平湿原を含む一帯は京都市の「山村都市交流の森」として整備されています。



林床に群生するイワウチワ



林内には天然のモミやスギ、ヒノキが生育

【大悲山モミ植物群落保護林に生息・生育する動植物】

- ◎植物：モミ、スギ、ヒノキ、イロハモミジ、コハウチワカエデ、ヤマザクラ、イワウチワ、チゴユリ、コアジサイなど
- ◎動物：ツキノワグマ、ニホンジカ、アオゲラ、オオルリ、ヤマガラなど

【保護林及び国有林内での注意事項】

- ★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
- ★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
- ★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
- ★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。
- ★ツキノワグマ生息域です！熊鈴をつけるなど、装備は万全にしてください。

【大悲山モミ植物群落保護林へのアクセス】

- ◎「山村都市交流の森」側から・・・「山村都市交流の森」の散策道を利用し、「緑風の森」からアプローチ。
- ◎大悲山側から・・・・・・大悲山林道で「三本杉」へ。「三本杉」横から登山道あり。
- ＜山村都市交流の森へは＞
- ◎バス利用・・・京阪出町柳駅より京都バス 32号系統・広河原行きで約90分「花脊・交流の森前」で下車。
- ◎車利用・・・鞍馬より県道38号線、国道477号線で北へ約17.5km、50分。

